

[ フィリピン ]

# フィリピンの海の安全を守る案内図

JICAが長年にわたって続けてきたフィリピンの海図作製協力。  
その集大成が、近々世界に公開される。

# Close Up!

ジャイカの  
あしあと



**船** 船が安全な航海をするために必要とされるのが「海図」による情報提供。各国は、世界基準に準拠した海図を発行し、海上の安全確保に努めている。

JICAが、日本と同じ島国であるフィリピンに対して海図作製の協力を開始したのは1984年。そして24年の年月を経て、初めての国際改訂版が発行される。

大小合わせて7109の島からなる群島国家フィリピンでは、50年前にアメリカの協力で作製された海図が、まったくアップデートされてこなかった。そこで、JICAは日本の海図作製を担う海上保安庁と連携して技術協力を実施。近年は、電子海図の作製も手掛けてきた。

しかし、やがて現行原図そのものに歪みがあることが判明し、海図作製の障害となっていた。そこでJICAは、2006年3月に「航海安全のための水路業務能力強化技術移転」を開始。フィリピンの国家地図資源情報庁（NAMRIA）の海図作成部門、沿岸測地部に技術移転を行った。

「海図作成は地味で根気がいる

作業」と話すのは、海上保安庁から専門家として派遣されていた坂本平治さん。5海域で海図のアップデートに必要な情報を収集し、海図の編集を指導した。

精度の高い海図を作製するためには、水路測量や潮汐観測、電子海図の海上実験など、あらゆる手法でデータを収集しなければならぬ。「陸とは違い、海底は実際に目で確認することができません。航海に必要な情報をすべて盛り込むのが海図なのです」。

プロジェクト開始から半年、測量船の底触事故で機材が損傷し、中止の危機に陥ったこともあった。しかし、坂本さん率いるプロジェクトチームの団結により、5海域の海図が完成。今後は、海の利用者への普及が求められる。

フィリピン周辺の海域で発行されている海図は全部で178図。すべての改訂版が完成するまでの道のりは長い。日本の技術協力の成果を糧に、現地の人々の手によって海図作製が進むことを期待したい。

